

教程の改訂と検定の改正について

2003年10月19日(日) かながわ労働プラザ

指導員養成講習会

上田英之

指導者制度の見直し

平成17年度発効を目処に、理事会及び担当委員会で、現行2本立ての制度を1本化(基本方針は決定済)にする整備案の検討にはいった。

新教程の発刊について

- ・指導活動のあり方を示す羅針盤であること
- ・指導者養成の教科書であること

【いままで】

- ・指導理論編
- ・指導実技編
- ・検定編
- ・安全編
- ・誘い編

【これから】

- ・指導理論編(来期廃刊予定)
- ・技術と指導(新刊)
- ・安全編(来期改定)
- ・誘い編

【これまでと同じ】

- ・オフィシャルブック
- ・受験者のために(DVD付)

教程の構成について

- ・新しい滑り方を出したということではありません
- ・技術論、指導活動全体の新しいコンセプト、
- ・実技の場面では、滑り方の高い質を求めていくような伝達講習ではなく、技術をどう活用して、学習指導の全体的な組み立て、商品の生産技術、製品力をどう高めることを、実施にディスカッションしていただくことが狙いになる

Part1 指導の運営にあたって

- ・「スキー指導」を取り巻く環境の変化 情報収集から知識発信へ
- ・スキースポーツにおける目的と手段
- ・「階段」方式の指導
- ・「はしご」方式の指導
- ・スキー商品づくりのコンセプト

われわれはどんな初心者でもスキーをやる上では 感動させなければいけません。

Part2 スキー技術の構成について

- ・スキーの縦軸・横軸方向の落下運動
- ・重力のスキー横軸成分（谷側）
- ・重力のスキー横軸成分（山側）
- ・スキー技術の「原因」と「結果」
- ・谷側への落下運動
- ・山側への落下運動
- ・角付けの定義
- ・斜面と絶対水平面
- ・遠心力と内傾
- ・スキー縦軸に沿う力と外向
- ・スキー縦軸に沿う力と内向

Part3 技術指導の内容について

- ・操作におけるスキーの主導性

テールコントロール

・一般的には、抜重と回旋、伝統的な技術で、雪面との接触が軽い、あるいは空中。発展形になればなるほど、おそらく将来は扱わなくても良い？

トップ&テールコントロール

・順序性から言うと、トップからターンを起こしてく。外スキー主導階から、両スキー主導にかわるという特徴。ブルークターンの段階から。縦滑りの要素がでてくる

トップコントロール

・誤ったカービングを正しくする。外スキー主導がはたして必要か？
・ショーとカービングなどでは、完全に内主導が最初から入っている。内主導から入って、結果的にターン仕上げ舵取りの部分で外や両足を使うということになる・

運動の形体的な変化、質的な変化

・従来、基本過程でやった直滑降のバリエーション、ブルーク、ブルークのバリエーションからボーゲンという道筋を大幅にカット。
・ブルーク：ターンの組み立てで両方向に相反する動きをとる運動は最初から取らないほうが良いと考える。ブルークボーゲンはルーズな扱いでよい。
・はやく同一方向へ外スキーも内スキーも操作されるような運動要素を基盤にして、一気にターンへいく道筋が、従来から大きく変わってきているところ。

Part4 指導活動の構成について

- ・学習指導に主体を
- ・コンセプトは、技術指導と学習指導が分けられていること。

Part5 スキー用語

従来の用語解説は、本文中に出てくる用語に対してのものだったが、今回は、本文中に取り扱っていなくても、スキー指導者として知っていなければならないものを取り込まれている。

表現の変更

基礎スキー スキー

- ・「基礎」すべての規程・事業から削除
- ・「基礎」という特殊な分野（特殊な滑り）はないということ。
- ・基礎スキー指導員検定 スキー指導者検定
スキー技能テスト スキーバッジテスト
- ・一般に広く普及している呼称を大切にす

教程改訂に伴う検定制度の変更

- ・変更の基本理念は「受験しやすく」
- ・以降詳細の説明をしますが、詳細は変更されることもありますので、現時点の解釈とご理解ください。

検定：指導員

単位制について

- ・単位未取得者についての養成講習（加盟団体）対象者を養成し、再受験するシステムの構築。
- ・次年度の受験については、全日程参加で未取得単位を受検することが原則。日程的なメリットはなく、隔年受験で習得単位が生かせる。
- ・受験料：単位種目の免除であり、検定料金の減免はなし。

合否判定

- ・検定員は従前の評価方法の範囲で判定し集計上で合否に置き換える。単位未取得者への開示は、2名または全員の否での説明する。

シュテムターンの要領は

- ・状況にあわせたテールコントロールを原因としている。外スキー主導であること。

シュテムターンの設定バーンが中急斜面不整地なのは現在のスキーでシュテムターンを使うとしたらコブ斜面しかない、安定を目標にしたすべりの基本となる。

シュテムターンの不整地とは

- ・今のスキーでシュテムターンを必要とされる状況を考える。パラレルターンがし難い状況を考える、コブ斜面、人工ウエーブなど。

シュテムターンは谷開きでもよいのか

- ・その方法が適している、有利であれば問題ない。外スキー主導の理解であること。

ブルークターンの要領は

- ・ トップ&テールが原因。外スキー主導から両スキー主導の理解であること。
なぜ合否判定になったのか
- ・ 一人のジャッジの評価が過剰に影響しないため。
不整地のバーン設定
- ・ スキー場に整備しないスペースを指定する、小回り種目の後のバーンなど。
検定：準指導員
制限滑降について
- ・ 従前のタイム計測と標準タイム設定を原則として、不都合のある場合は、検定による合否を採用。 コース整備や計測が取れない場合、ジャッジの採用。
- ・ タイムの基準は、加盟団体に委ねる
- ・ なぜタイムを計るのか：規制されたなかでのスピードの物量的測定。プレッシャーでの能力評価となる。
なぜ単位制にしなかったのか
- ・ 地方事情が背景にあること、全国的な共通性がとれない。
検定：プライズテスト
事前講習と受験料の問題
- ・ 当該年度 1 回受講すれば、全国共通の単位として認められ同年度 2 回目以降の受検の場合は、義務付けが免除となる。受験料・講習会費は、加盟団体の規定による。
プライズテストの 2 回目以降の受験料は
- ・ 土日連続で受検したい方の便宜を図っていますが、本来は事前講習を受けていただきたいと考えています。受講料は、主管団体の決定による。
級別テスト
自己申告について
- ・ 条件の S A J 登録は、申告認定と同時期でよい。条件にスノーリフト会員も含まれる。
自己申告の具体的な認定方法
- ・ 3 級から 2 級程度のクラブ登録が自己申告する。
- ・ 申請書はオフィシャルブックに掲載
- ・ テストのなかに自らどれくらい滑り、どれくらいのレベルかを自己評価する面をもたせた。
自己申告を誰が判定するのか？
- ・ 加盟団体長（クラブ長、スキー学校長）
自己申告：実際の滑りを見なくても判定できるのか
- ・ 実際には本人の滑りを良く知る方の判断で長が認める。スキー学校の生徒、クラブ員で当然講習・行事を通してスキーレベルを知っていることが前提。
当該年度にバッジテストが申請されていなくても認定できる
- ・ 可能

いつ判定するのか？講習会、シーズンに関係あり

- ・いつでも可能。

会員メリット？

- ・会員メリットである

・テストに自らの自己評価をこのクラスに取り入れた、新しい試み。距離や時間、長さなどの量的な能力テストの先駆けである。

申告認定の2級でも1級の受験資格は満たされるか

- ・申告認定者は2級資格を有する。

1級テストの事前講習 1単位2時間の義務付・有効期限なし「事前講習受講修了書」等の作成と発行は？

・実施団体が発行します。有効期限は当該シーズンとなります。オフィシャルブックのプライズの修了証を参考にしてください。全国共通となります。

実践種目講習テストをなくしたのは？

- ・ひとりのジャッジ評価が客観性に欠けること。
- ・受検人数が多くなると運営上無理がある（3人以上となる）

斜度設定は

- ・どの検定会場も斜度設定がしにくい。現状に合わせて、主催団体に任せる